

第7期吹田健やか年輪フォーラム中間報告会 寄せていただいた質問と回答について

※質問は原文のまま掲載しています

質 問	回 答
<p>・市内の①独居高齢者、②老老高齢者、見守り体制はどうなっているのか。具体的システムが構築されているのか。福祉委員会、民児協、地域包括 支援センター等で実際動いているのか。</p>	<p>見守りについては、地区福祉委員、民生委員、高齢クラブ、自治会の方など、地域の皆さんが、重層的な形で見守りを行っていただいています。それに加えて、介護事業者の方々に日々の仕事の中で見守っていただいているほか、地域包括支援センターも見守りを行うなど、地域の見守りの網の目を増やしていっています。地域の方による見守りも引き続きよろしく願いいたします。</p>
<p>・社会参加した男性（女性）にポイント付与ということは検討されたことはないのか？男性は本当に呼び出すことは難しい。</p>	<p>【後藤部長】</p> <p>男性の社会参加について、一次予防の社会参加の部分と被りますが、男性が外に出ていただくという取組は重要になると考えています。これについては市も施策として考えていこうと思っています。同時に、生活支援コーディネーターについては、本市も配置しておりますので、しっかりと役割を果たして地域とつながっていきたいと考えています。</p> <p>社会参加した方へのポイント付与について、男性は呼び出すことが難しいと切実な現状についても質問に付けていただいています。介護保険の中で、ボランティアにポイントを付与する制度がございます。広く社会参加していただいて違う価値観を持つことが今後必要になってくるので、来年度一年間考えさせていただいて、ものにできるようにしたいと考えていますのでよろしく願いいたします。</p>

質 問	回 答
<p>・ケアシステムが 2025 年には医療介護は行政サイドの努力は分かった。予防生活支援は具体的には。</p>	<p>【大阪府黒田介護支援課長】</p> <p>医療・介護・介護予防については、縦割りではなく、全体でやっていかないとはいけません。そうはいつでも大阪府には医療と介護を一体的に進める部署がありませんので、縦割りになっている部分については反省すべき部分です。介護予防という言葉を使わず、大阪府は健康増進施策として推進しており、昨年は「健活10」を打ち出して進めていっています。来年度予算も健康増進について、これから議会に提案します。介護予防と健康増進は表裏一体ですのでしっかり連携しながら進めていきます。</p> <p>質問の主旨は、介護保険を使っていない元気な方に対する支援ということかと思えます。健康寿命の延伸の取組については、先ほど、介護予防の体操の話がありましたが、それは、介護保険の中の話ではなくて生活支援の総合事業の中でやっていただいていますので、今後も推進していきたいと思っています。</p> <p>これからは万博も控えていますので、健康寿命の延伸という部分に大阪府としては力を入れていきたいと考えています。生活支援の部分は、行政が行う部分もありますが、生活支援コーディネーターや地域包括支援センターに頼るところもあります。大阪府のような広域自治体ができることは、各市町村の生活支援コーディネーターや地域包括支援センターの職員、市町村の職員を集めて研修をすることです。人材育成を中心に行っていますので、各地域で地域の力を強めていただけたらと考えています。地域の力については人材育成を通じて、側面から支援しています。</p>

質 問	回 答
<p>・高齢になると足がない。バスをもっと出してほしい。坂道あり。</p>	<p>【後藤部長】</p> <p>吹田は比較的に山が無い都市ですので、意外と歩きやすいと思っておりますが、ニュータウンに行くと坂が多いですし、建て替えが進んでいますが、エレベーターの無い5階建ての高層の建物がまだまだ残っております。そのような面から言うと外出支援は課題になってくると思います。バスにつきまして、本市内で走っているのは主に阪急バスになりますが、阪急バスとの調整は土木部が積極的に行っておりますし、千里山の方でコミュニティバスの試験運転も考えていますので、まだまだ御意見をいただけましたら、よりよい環境になっていくと思います。</p>
<p>・障がいのある人の障がい福祉制度と介護保険の関わりはどうなるか。</p>	<p>【後藤部長】</p> <p>厚生労働省から65歳問題ということで見解が示されています。障がいのある方が障がい福祉サービスでないと適用できないサービスがあれば、年齢に関係なく障がい福祉サービスを使えるという、明確な方向が決まっています。今後さらに増えていくとは思いますが、障がい福祉の計画相談員と介護保険のケアマネジャーの連携をしっかりとっていくような仕組みを考えていくことが行政の一つの課題と考えています。</p>

質 問	回 答
<p>・中核市移行の課題</p>	<p>【舟津健康医療審議監】</p> <p>中核市移行の課題ということですが、これから取り組んでいくこととして、ひとつは今回のフォーラム開催場所である保健所は、大阪府が運営しています。大阪府が吹田市の保健行政を見ているのですが、運営は大阪府に任せて吹田市は直接運営していないということになります。先ほど、医療機関が非常に充実しているというお話をさせていただきましたが、医療環境が充実した吹田市だからこそ、一番住民さんに近い自治体で医療においてもしっかりと責任を持って進めていくという体制がすごく重要だと思っています。そういった意味で、現在中核市の移行に向けて準備をしているという段階ですけれども、移行後は吹田市の保健所になります。先ほど紹介しました、健康医療のまちづくりについては、病院、国立循環器病研究センターをはじめ、関係者に連絡を取りながら進めていくこととなりますが、新しい専門職の医師、薬剤師のような専門的な知識を持った人が市役所に入ってきますので、そのような方を中心にしっかりとコミュニケーションを取りながら取組を推進していく。また、健康づくりに関しても新しい施策が、新しい視点で入ってくるのが期待できます。課題というよりは、以上についてこれから取り組んでいけると考えています。</p>
<p>・高齢者の集まれる場所、年代別、趣味等、気楽に外へ出かけて寄り集い、意見の交換や影響を受ける場所づくりが必要。</p>	<p>第1部3時間目の中で、市内に集いの場所が200か所あるとお伝えしました。しかし、行きたいけれど行く場所がわからないというお声もあるかと思えます。現在、社会福祉協議会のホームページで情報提供していますし、地域包括支援センター等で御相談いただいたら情報提供させていただきます。</p>